

本時までの 指導の実際

- ☐ 準 備
- ☐ テーマ・ゴール
- ☐ 計 画
- ☐ 情報リサーチ

3. 指導の実際

準備

①子どもたちが、自分のくらしと世界とのつながりに目を向けることからスタート！

子どもたちは世界とのつながりという、松井、イチロー、中田などスポーツ選手によるつながりがイメージの大部分で、身近なくらしの中につながりを実感していなかった。自分の身のまわりに外国製品が溢れていることに気づかせることから、世界とのつながりに目を向けるように試みた。

身の回りにある様々な物が外国製品であることに気づいた子どもたちは次のような感想をもった。

「びっくりしたな。予想以上にたくさんの国とつながりがある。地球の反対側からも！」
「中国製品がとても多いな。ヨーロッパの国々や南アメリカの国々ともつながっている。」
「もし、これらの国々につながっていなかったら、私たちのくらしはどうなっていたのだろう。」
「世界の人たちに私たちのくらしが支えられていたことに初めて気づいたよ！」
「でも、私たちは世界の国々のことを知らないなあ。名前すら知らなかった国もあるよ。」
「知らないと困ることや失礼なこともあるかもしれないな。もっと知る必要がある。」
「もっと世界の国々のことを知りたいな。知りたくなってきた。」

世界の国の話を聞く動機付けをすることができた。

②「世界と日本のあたり前(=文化)の違い」に こだわりながら。

「世界の国の話を聞きたい。」子どもたちの願いに応えるため、岐阜県国際交流センターを訪れた。

ここで韓国、ブラジル、ロシアの交流員に話をしてもらうことになった。また、EF としてお世話になっているクリス先生（フィリピン）と3年間パキスタンで生活した学級担任の話を加えた。

5月22日 パキスタン 29日 フィリピン

6月13日 韓国 18日 ブラジル 26日 ロシア

パキスタンの話を聞いた子どもたちは、右手を使って、カレーを食べることや、45度を超える夏にも関わらず、長袖長ズボンの服装をしていること、辛いカレーには秘密があること、1日5回のお祈りを大切にしていることなどにたいへん驚き、興味をもった。

そして、それが「自分たちのあたり前にしていること」と異なるために驚いたことに気づいた。

さらに大人の拳骨2つ分もあるパキスタンの大きな松ぼっくりを見て、「うわあ、大きい。」と叫ぶ子どもたちに日本の松ぼっくりを見せた。そして、「パキスタンの人がこれを見たら、どう思うだろう。」と尋ねた。

私たちは反対に『なんて小さいのだろう』と、びっくりするだろう。『変なの。こんな小さい松ぼっくりはおかしいよ。』と言いたくなるかもしれないな。」

それぞれに自分が正しいと信じている「あたり前」があることに気づくことができた。「世界と日本あたり前の違い」が世界の国の話を聞くポイントになった。子どもたちに身近である「あたり前」という言葉を使うようにして、学習の最後には、「文化」という言葉に置き換えていくことを考えている。

③日本のことも知らない自分に気づいて。

6月の研究授業における鈴木敏恵先生のアドバイスを受けて、日本人のお話を聞く機会をもった。

浴衣を着た教頭先生による「梅干しの効能」「打ち水の効果」「浴衣の着方」「安心して飲める水」などのお話から、日本のことなのに知らなかったことや、日本の文化やそのよさにも目を向ける大切さに気づくことができた。

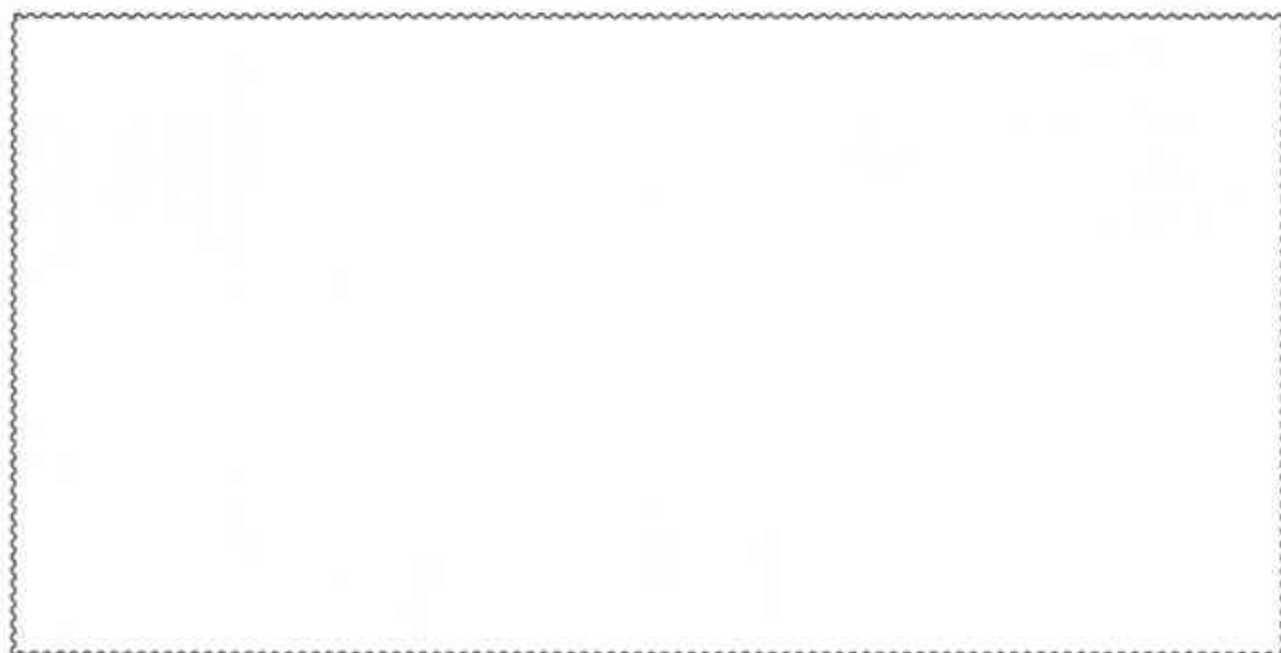


華陽小6年★わくわくタイム



パキスタンの 人たちの暮らし

平成15年5月22日(木)

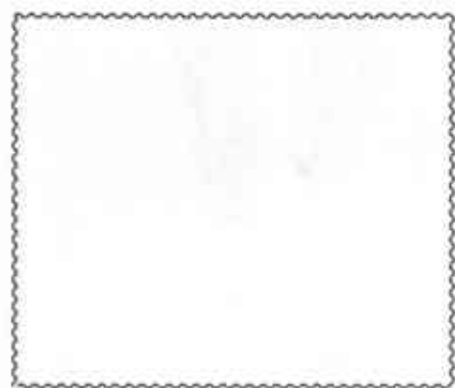


華陽小6年★わくわくタイム



フィリピンの 人たちの暮らし

平成15年5月29日(木)



華陽小6年★わくわくタイム



韓国の 人たちの暮らし

平成15年6月13日（金）

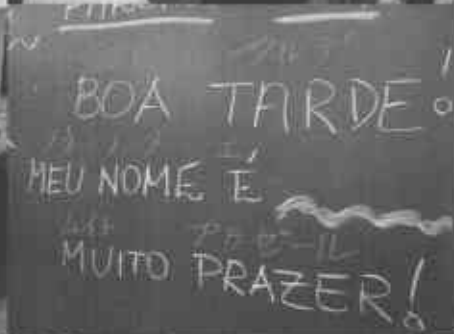


華陽小6年★わくわくタイム



ブラジルの 人たちの暮らし

平成15年6月18日(水)

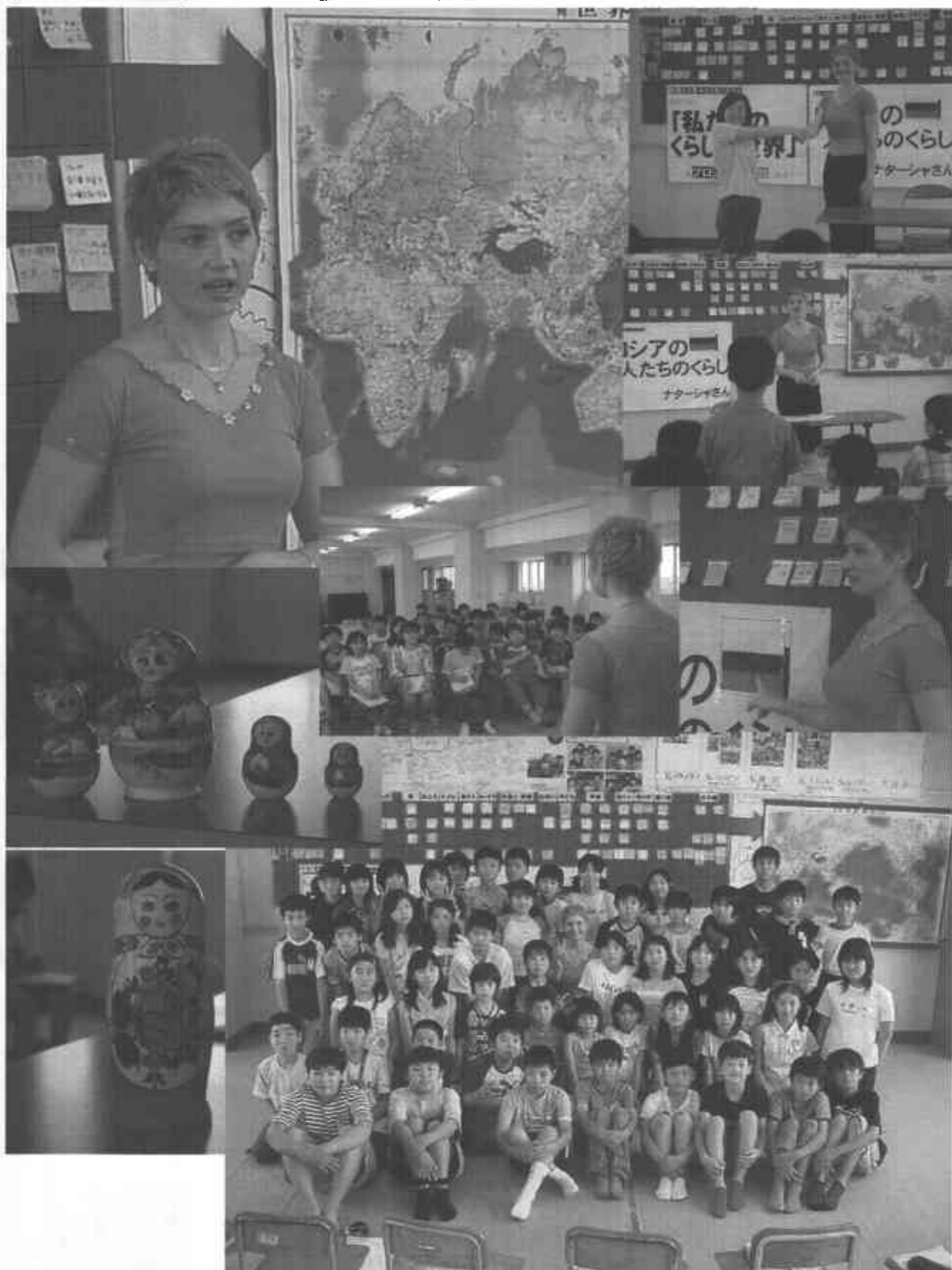


華陽小6年★わくわくタイム



ロシアの 人たちの暮らし

平成15年6月26日(木)



▼子どもたちが気づいた あたり前の違い

パキスタン	フィリピン	韓 国	ブラジル	ロシア
				
右手を使って、カレーを食べる	手を使う 音を立ててはいけない	鉄のはしを使う お皿は置いて食べる	音を立ててはいけない	
1日3食カレーを食べる		ごはんを食べる 犬を食べる	へびや、うさぎを食べることがある	名物はボルシチとピロシキ
子どもたちは、大切な働き手になっている	子どもたちも仕事をしている	子どもたちは学校へ通っている		
イスラム教を信じて 1日5回お祈りする	キリスト教を信じて 1日3回お祈りをする	4割 キリスト教 3割 仏教 信じている		80%はキリスト教
あいさつは握手 アッサラームアレイクム	あいさつは握手 目上の人には握った手を額にあてる		あいさつはキス	握手が基本 おじぎは自信がない証拠
服装は、長袖長ズボン シャルワルカミーズ	服装は、半袖半ズボン			
トイレでは水を使う 紙を使わない	トイレでは水を使う 紙を使わない	トイレでは紙を使う でも流さず、ゴミ箱へ	使用済みトイレトーパーはゴミ箱に捨てる	
水が貴重なもの	水が貴重なもの	ふだんはシャワー 日曜朝は銭湯であかすり		
家が、石やレンガでできている	家が、木や石でできている	床下のパイプにお湯を流す ＝オンドル	瓦が赤い	窓ガラスが二重になっている 壁の中を湯が流れている
甘い紅茶（チャイ）が大好きな飲み物	やしの実のジュースが大好きな飲み物	キムチは必ず食べる 給食にも出る		
豚肉はさわってもいけない（イスラム教）	豚肉はおめでたい日の一番のプレゼント クリスマスには豚の顔にリンゴを入れて飾る	おめでたい日は、ワカメスープを飲む 試験の日は飲まない		
学校に行きたくても行けない子がいる 青空教室 黒板ノート	学校は、午前と午後	学校は日本と似ている 春休みはない ゴールデンウィークない		

④100人アンケートを通して。

2学期に入り、1学期に学んだ内容について、身のまわりの人たちがどのくらい知っているのかをアンケート調査した。10の設問を作り、知っているかどうかを尋ねた。一人あたり2～3名尋ねた結果、153名の回答が寄せられた。その結果から、自分たちも知らないでいた世界の「あたり前」を半数以上の身のまわりの人たちも知らないでいる事実がわかった。

華陽小6年★わくわくタイム



日本の 人たちのくらし

平成15年9月17日(水)



日本を見直しました！

- ・日本は幸せだと思う。水も飲めるし梅干しもある。
- ・日本の水は美味しいと初めて知った。
- ・日本の食生活が体にとってもよいことを知らなかった。
アメリカやヨーロッパの人たちがヘルシーで素晴らしいと考えていることを知らなかった。
- ・水をうって涼しくする工夫を素晴らしいと思った。
- ・着物が日本の文化と知らなかった。
- ・教頭先生は浴衣を5分で着るなんてすごい！！
- ・日本でふつうに思っていたことにもすごいことがあると気づいた。

日本のことを知らないなと実感！

- ・日本に住んでいるのに日本のことで知らないことが多かったのでびっくりした。話を聞いてよかった。
- ・自分の住んでいる国だから全部知っていると思っていたけれども、梅干のことなど知らないことがまだまだあったので日本のことを知らないなと思った。
- ・日本には私たちの知らないことがまだいっぱいあると思った。

もっと日本のよいところを言えるようにしたい！

- ・教頭先生に日本のいいところを言えるかな？と聞かれて、ビクツとした。もっと日本のよいところを言えるようにしたい。
- ・ぼくは日本のいいところを言って！と言われても、すぐに言えない。
日本のいいところを言えるようにしたい。
- ・はしをちゃんと持ちたい。
- ・梅干しのこと、着物のことなど日本人なのに日本について知らないことがたくさんあったので、もっと知ろうと思った。
- ・昔の日本人は、いろいろな知恵をしぼって生きていたことが分かった。先祖の知恵があったから、今の私たちの生活があるように思えてきた。とても幸せだと思った。

教頭先生ありがとうございました

①子どもたちの見出したテーマとゴール

題材について「よい点」と「問題点」について話し合った。

よい点

- ・世界中とのつながりがある。
(身のまわりの食べ物・電化製品など)
→私たちの生活が支えられている！
- ・世界の国の人と仲良くなっていける
- ・世界の文化がわかる。

問題点

- ・それぞれの国のあたり前を知らない人が多い。
→争いがおこる・悲しい思い
- ・言葉以外のものを使って関わりをもつことができない
- ・他の国の困っていることを知らなかった。
- ・外国だけでなく、日本のよさを知らない

<試行錯誤 その①> 何についての「よい点」「問題点」なのか？

解説書の通りに、題材に関して学んだ「よい点」「問題点」という言葉を用いたが、子どもたちの中には、話を聞いた国におけるよい点と問題点をあげるのかと混乱する様子が見られた。

そこで、「私たちのくらしと世界」の「つながり」に注目するように、軌道修正した。

つながりの「よい点」「問題点」を意識するようになって、子どもたちはようやく納得し、話し合いを進めることができた。

→1学期における「準備」のフェーズで、「よい点」「問題点」について整理するチャンスがあった。今回のような「準備」を長く設定する場合、「題材」を意識して考えを整理する機会を意図的に仕組む必要があると考えられる。

この話し合いをもとにして、子どもたちが見出したテーマとゴールは次のようである。

テーマ 世界の人たちと仲よくするために、
みんなに 世界のことを もっと知ってもらおう！

ゴール 「世界は友だち ガイドブック」を作る！

全体のテーマ・ゴールを決め、自分の願いをシートに書き出した。

<試行錯誤 その②> 「世界の人と仲よくする」とは、ということなのか？

書き出された子どもたちの願いに広がりが見られなかった。

- ・あいさつの仕方を教えてあげたい
- ・食事の仕方を教えてあげたい
- ・相手に失礼なことや相手が嫌がることを教えてあげたい
- ・遊びを教えてあげたい

直接的な「仲よくする方法」に終始してしまい、相手の国の文化を理解することに気づくことなく、書き終えている子が少なくなかった。私たち教師がこだわりたかった「あたり前としていることに込められた知恵に気づき、(すごいなあ！)と尊敬の念をもてること」に遠いテーマになってしまうおそれがあることが分かった。

そこで、「仲よくすること」の意味について話し合う場面をもった。

「仲よくすること」とは、(相手とわかりあえること、相手を受け入れること、相手を尊敬すること)と確認し合ったあとで、もう一度、「世界の人たちと仲よくするためにみんなに知ってもらいたいこと」を書き出すと、上記のあいさつの仕方、食事の仕方、相手の嫌がることなどの他、

- ・外国の人に伝えたい日本のよさを教えてあげたい
- ・迷惑をかけず、恥をかかないトイレの使い方を教えてあげたい
- ・大切にしているお祈りのことを教えてあげたい
- ・言い伝えの知恵やこめられた思いを教えてあげたい
- ・家や服装の知恵のすばらしさを教えてあげたい

など、広がりだけでなく、深まりも見られた。見直す機会をもってよかった。

→子どもたちの願いを見て、もう一度見直す機会をもつことは、悪いことではないと考える。

→いきなり、一人思考で書くのではなく、こだわりたい思いについては、話し合いの場面をもつことがあってもよいと考える。

「仲よくする」とは、

- ・相手とわかりあえること
- ・相手を受け入れること
- ・相手を尊敬すること
- ・相手があたり前にしていることを大切にすること
- ・相手があたり前としていることにこめられた知恵に気づき、すごいなあ！と尊敬の気持ちをもてること



▲わくわくタイム(平成15年9月26日)
「テーマとゴール」のフェーズで話し合ったこと

②ブレインストーミングとチームの提案

＜試行錯誤 その③＞ 「～について」では、チームの提案にはならない。

チームを作り、初めてのブレインストーミング。子どもたちは、模造紙の上を緊張しながら、ペンを動かした。方向にも、マス目にも、字の丁寧さにも大きさにもとらわれなくて自分の考えを書く機会をこれまで設けてこなかったのが、どうしたらよいのか戸惑ったのだろう。予定していた時間の終わり頃になって、その方法を飲み込めた子どもたちは活動的になった。



折り込んでいた模造紙の端を伸ばして、チームの提案を書きまとめる段階になって、提案の書き方が漠然としていることに気づいた。「～について」と書きそうなチームもあった。それでは調べたことをそのまま発表する調べ学習発表会や、体験したことをそのまま発表する体験発表会になってしまうおそれがあると考え、提案の書き方を穴埋め式で示した。すると、子どもたちは、次のようなチームの提案を書き出した。

＜子どもたちの考えたチームの提案＞

- ・ 世界に行く人や世界に住む人たちのために、世界のトイレの恥をかかない使い方を提案します
- ・ 世界に行く人のために、覚えておきたい食事のマナーや食事の仕方を提案します。
- ・ 外国に行く人や外国から来た人に会う人のために、あいさつの動作や言葉を提案します。
- ・ 世界に羽ばたく人のために、相手が喜ぶこと（プレゼントのなかみ）を提案します。
- ・ 世界に行く人たちのために、相手に嫌がることをして争わなくてもよい方法を提案します。
- ・ イスラム教を信じている人にこれから会う人のために、（イスラム教について）これだけは知っておかなければいけないことを提案します。
- ・ これから外国へ行ったり、外国の人と会ったりする人のために、知っておきたいお祈りの仕方を提案します。
- ・ 世界の人たちと関わり合う人たちのために、家の工夫のすごさを提案します。
- ・ 外国に行ったり外国から来た人を受け入れたりする人のために、服装の工夫の知恵を提案します。
- ・ これから外国の人と会う人のために、役に立つ言い伝えを提案します。



→ 次のような穴埋め式の書き方を提示することで、

（だ れ）

のために、

する方法を提案します！

子どもたちは、願いをいっそう具体化させた。

③工程表と子どもたちの様子

チ ー ム	チームの提案	工程表に書き出した 調べる内容や方法	支援の意図など 子どもたちへのヒント
ト イ レ	世界に行く人や世界に住む人たちのために世界のトイレの恥をかかない使い方を提案します	・トイレの形 ・トイレのまわりにある物 ・トイレの使い方 ホームページ中心→お助けマン	・手か水か紙か？ ・使用した紙の始末は？ HP「世界のトイレ情報」 ・有料かどうか？ ・ふき方は？ ・座る向き？ ・紙か手か水か - トウモロコシか石か？
食 事 の 仕 方	世界に行く人たちのために、覚えておきたい食事のマナーや食事の仕方を提案します	・食事のマナー ・食事の仕方 お助けマン→ホームページ→本	・道具 ・食事中の音 げっぷ ・いただきますや、ごちそうさまの習慣 HP「食事の作法」 「世界の食事マナー知識チェック」 ・国別のマナー紹介？
あ い さ つ	外国に行く人や外国から来た人に会う人のために、あいさつの動作や言葉を提案します	・あいさつのしかた 外国に住んでいた人に聞く →お助けマン→インターネット →本	・出会ったときの動作 (握手・抱き合う・キス) ・あいさつの言葉 おはよう こんにちは さようなら ありがとう HP「世界のあいさつクイズ」 ・どの国の人が多い？ ・あいさつにおじぎは必要かそれにかわるものは？
喜 ぶ こ と	世界に羽ばたく人のために、相手が喜ぶこと(プレゼントのなかみ)を提案します	・相手が喜ぶこと ・プレゼントの中身 ・プレゼントを渡すとき お助けマン→本 →ホームページ	・プレゼントすると喜ばれる物は？ ・どんなときに贈るのか クリスマスには？ 誕生日には？
嫌 が る こ と	世界に行く人たちのために、相手に嫌がることをして争わなくてもよい方法を提案します	・嫌がること ポートフォリオ→メール→教えてコーナー→本	・左手の握手 ・贈り物にはいけない色 ・公共の場における子どもの振るまい ヨーロッパに行く人は？ アジアに行く人は？

①チームでの進め方をじっくりイメージさせる

これからすべきことを一人一人考え、2回目になるブレインストーミングを行った。

1回目とはちがい、余裕をもってペンを動かす姿が見られた。また、前日のシートで「よいチームになるための約束やアイデア」を話し合ったため、(必ず一つは意見を言おう！)(自分勝手なことをしないで集中しよう！)(友達の意見をしっかり聞こう！)などの思いをもちながら取り組めた。

まず、チームへの参加の仕方をイメージさせることの大切さを感じた。

工程表を作る前に、情報リサーチの基本を学んだ。インターネットやメール、本や新聞、アンケートなどの調べ方をイメージしていた子どもたちが、その調べ方のよさと問題点・その解決方法を考えた。ホームページを探すには時間がかかることや、怪しい情報も多いこと、新聞や本は偏った意見で、真実でないことがあること、パンフレットは大げさに表されていることが多いことなどを考えることができた。一つの情報に頼らないことや、情報を得た際には、他の手段でも確かめることの大切さを学んだ子どもたちは、その成果を工程表にも生かすことができた。

②「世界各地のお助けマン」と「教えてコーナー」を紹介する

本やインターネットだけでなく、「人との関わり」を通して調べる経験をさせたいという願いから2つの方法を紹介した。

「世界各地のお助けマン」

国際交流センターで活動している CIR(国際交流員)や、岐阜県から世界各地に派遣されている日本人学校の教員に連絡を取って、協力できると返事をいただいた方を「お助けマン」として紹介した。

保護者にも協力を呼びかけており、今後も、増えていくことを見通している。

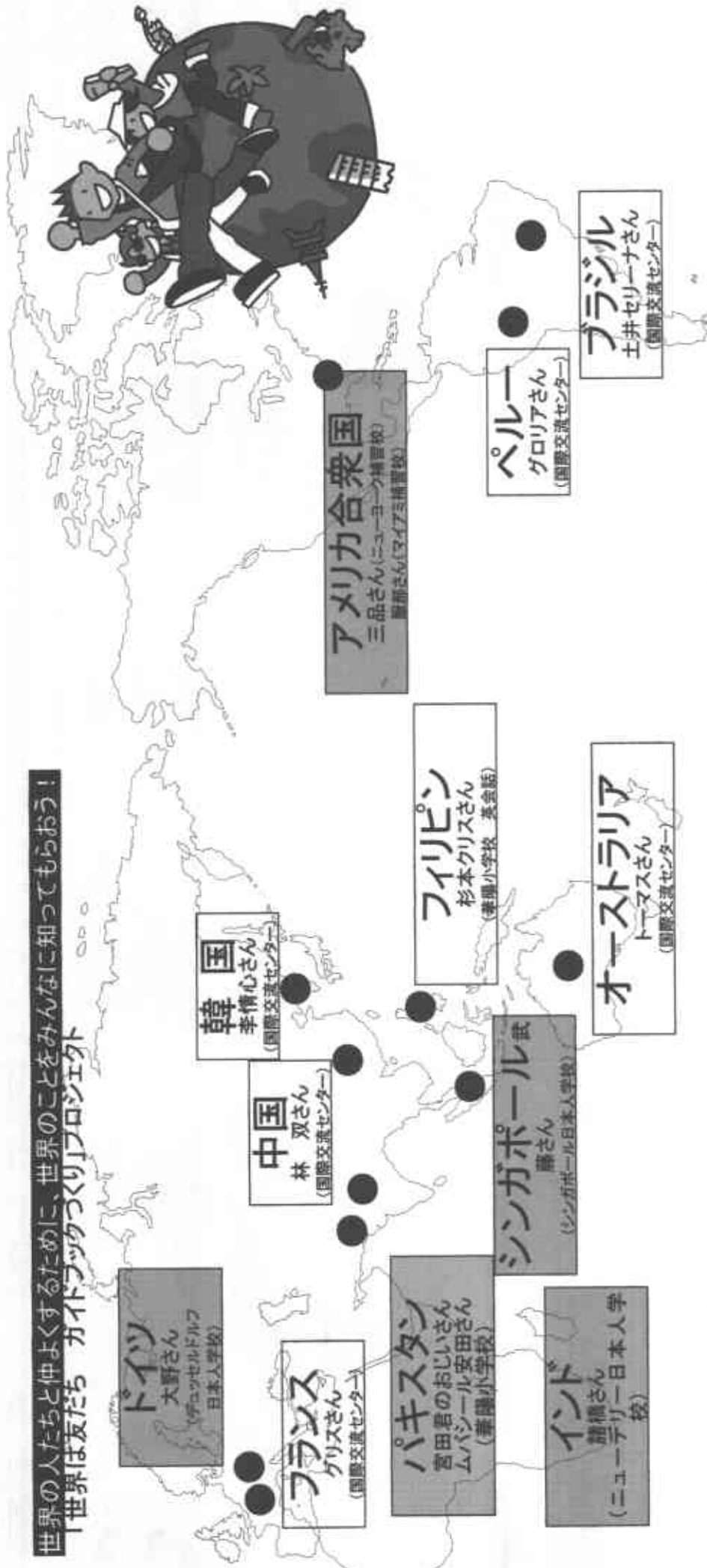


「教えてコーナー」

本校のホームページにパスワードをもたないと入れないコーナーを設けている。本年度は全ての保護者家庭にパスワードを知らせて協力を呼びかけている。子どもたちの質問に、気軽に答えていただけるような環境作りの試みを続けている。

	チームの提案	工程表に書き出した 調べる内容や方法	支援の意図 子どもたちへのヒント
イスラム教	イスラム教を信じている人にこれから会う人のために(イスラム教について)これだけは知っておかなければいけないことを提案します	・どの国のあたりに多いのか ・イスラム教の習慣、喜ばれること ・嫌がられること ・イスラム教を信じる人の一日 ・一見おかしいと思えること 本や新聞→ホームページ	・大切にしているコーラン ・肌を見せないこと ・お祈りの時間を大切にしていること ・食べてはいけない豚肉 本「見たい知りたい学びたいパキスタン」
おいのり	これから外国へ行ったり、外国の人と会ったりする人のために、知っておきたいお祈りの仕方を提案します。	・おいのりをする場所 ・だれにおいのりするのか ・おいのりの服装 ・おいのりのポーズ お助けマン→ホームページ	・おいのりの方法や回数 ・イスラム教、キリスト教 ・仏教、その他
家の工夫	世界の人たちと関わり合う人たちのために、家の工夫のすごさを提案します。	・家の工夫 大工さんに聞く→ホームページ→本や新聞	・ロシアの三重窓 ・インド 北向きの家 ・インドネシア 高床式の家 ・カナダ 二重窓 ・ギリシャ 強い日差しを防ぐ ・気候に合わせた家の工夫?
服の工夫	外国に行ったり、外国から来た人を受け入れたりする人のために服装の工夫の知恵を提案します。	・服装の工夫 ・服装の知恵? ・服装の伝統的なこと? お助けマン→ホームページ	・パキスタンのシャルワルカミーズ ・インド サリー ・気候に合わせた服装の工夫?
言い伝え	これから外国の人と会う人のために、役に立つ言い伝えを提案します。	・岐阜市に多くいる外国人(中国・韓国・フィリピン・ブラジル)の言い伝え ・日本の言い伝え お助けマン→インタビュー→ホームページ	・教えてあげたい日本の言い伝え(梅干し・打ち水など) ・岐阜市に多い外国人の母国で伝わる言い伝え ・海外でかぜをひいたら、こうすれば治るかも? 民間療法の知恵?

世界の人たちと仲よくするために、世界のことをみんなに知ってもらおう！
「世界は友だち ガイドブックづくりプロジェクト」



世界各地のお助けナマンにメールで質問！

国際交流センターで
働いている外国の人

韓国 李(イ)さん
ブラジル セリーナさん
中国 林(リン)さん
オーストラリア トーマスさん
ペルー グロリアさん
フランス グリスさん

世界各地の日本人学校で
働いている日本人

アメリカ合衆国 三品さん 服部さん
ドイツ 大野さん
インド 諸橋さん
シンガポール 武藤さん

外国に住んでいた人

フィリピン 杉本クリスさん
パキスタン 宮田君の
おじいさん
おばあさん
ムバシール安田さん

学校のホームページ「教えてコーナー」で調べる！

The image is a two-part screenshot of a web browser. The top part shows the homepage of 'Shanaka City立華陽小学校' (Shanaka City Ritsuryō Elementary School). The page has a dark header with the school's name and a grid of links. A large white arrow points from the '教えてコーナー' (Teaching Corner) link to the bottom part of the image. The bottom part shows the login page for the '教えてコーナー'. It has a title bar 'みしえてコーナー' and a login form with fields for '名前' (Name) and 'パスワード' (Password). The password field is highlighted with a red box and the text 'パスワードは shana'. Below the login form, there is a section for 'お知らせ' (Notice) and a list of recent posts.

パスワードは
shana

必ず「願い」を書く。
何のために知りたいのか
を講義手にしっかりと伝え
ることが大切！
最後にアップロードを押
せばOK!

名前 妙きのり 6年1組
姓 外国の人が、いやがること
僕たちは世界の人たちと仲良くなるために「外国の人がい
やがること」を提案しようと考えています。そこで外国の
人たちがいやがることを教えてください。食事中のこと、プ
レゼントのことなどどんなことでも構いません。よろしく
お願いします。

写真・音楽
など 参照...

★ 言い伝え From もとげん 5年1組
岐阜の言い伝えを教えてください
... 2003/06/09(Thu) 09:28 [No.112]

★ お米と気候 From リナゴン6ヨッちゃん 5年1組
お米と気候はかんがい、暖るか

問題点は、いつ返事が来るのかがわからないこと。
メールに比べたら返事が返ってこない確率が高いが、
知らない人からも返事をいただける可能性がある！

4, フェーズ指導計画 **制 作**

育てたい力 (同和教育の観点から)	学 習 活 動
① プレゼンテーションの「制作物」を作るための手順を知ることができる	□プレゼンテーションのための基本情報を確認する。 ・プレゼンテーションの「持ち時間」 → 5分 ・「誰に」プレゼンテーションするのか → 地域の人たち 保護者 国際交流員 他のチーム 約150名 ・聞いてくれる人数 ・空間的環境・機器設備 →場所 体育館 パイプイス100脚 準備 児童イス 看板「テーマとゴール」 マイク ・プレゼンの方法 →模造紙2枚 色の制約→ 字の大きさの制約→ □効果的なプレゼンテーションをかなえる流れを確認する。
② 話し合いを通して、伝えたいことをはっきりさせることができる 一人一人がもっている情報を適切に生かして、根拠ある情報をもとに制作できる	□集めた資料を整理して、提案の根拠や証拠を選ぶ。 □提案したいことがわかるグラフ、写真、イメージなどを決める。
③ 伝えたいことをはっきりさせて、下書きを書き、模造紙2枚に伝えたい内容をまとめることができる ⑤ 一人一人がもっている情報を適切に生かして、根拠ある情報をもとに制作できる ⑥	□どうしたら、わかりやすく伝わるのかを考えて、資料を並べる。 □大まかな下書きを作る。 □下書き全体を見て、デザインや色、組み立てを工夫する。 □下書きを生かし、全体を整え、「制作物」を完成させる。

5. 校内研究との関わり

① 「学び合う力」を育てる学習過程のあり方

□「相手意識・目的意識・願い」を明確にし、学習のゴールをイメージした課題づくり

→プロジェクト学習には、テーマ・ゴールの決定、計画、調べ方、発表の仕方など、子どもたちの意志を活かす一連の流れがある。これの一つずついいねいに進めていくことが「学び合う力」をつけると考えている。「一連の流れ」こそ、「学び合う力」を育てる学習過程である。

→プロジェクト学習において「学び合う力」を育てるポイントを次のように考えている。

- ・話し合いの前提として、「一人思考」の場を位置付けることで全員が話し合いに参加できるようになり、仲間と学び合うよさを実感させることができる。
- ・話し合いの際に、大きな紙にそれぞれの思いや考えを自由に表出する方法を探っている。字の大きさも丁寧さも方向も関係なく、思い思いに書き出す中で、おたがいの願いに気づくことができる。また、自分の願いを仲間に伝えることができるようになる。
- ・活動するチームのあり方について考える場面を設定している。よりよいチームにするためのやくそくやアイデアを意識させることで、集中力や向上心を持続させることができる。

② 子どものよさを評価する方法と支援のあり方（ポートフォリオ評価）

□自己評価プリントを作成することと効果的に活用すること

□子ども自身が、学習の歩みがわかるファイル、ノート、作品を作り残すこと

→子ども自身が、どんな力が付いたかを考える場面を設定して、自己評価するようにした。ポートフォリオシートの「今日の目標」に対して、どう取り組めたのかを「自己反省」として、毎回記入するようにした。

→教師は、毎回シートから子どもたちの活動や思いを把握するように努めた。「何のために」この活動をしているのかということを見失いがちな子どもを把握することができた。

→毎回記入したポートフォリオシートと自分が調べた資料をファイルし、自分の考えの変化に気づくようにした。

□人権意識や行動力を高める支援のあり方

→自分のくらしが世界とつながっていることに気づき、「思いこみ」の危うさや、しっかりと事実を確かめる大切さを学ぶことができた。

→話を聞く時には必ずメモをとるようにし、話を聞いた後には自分の考えをまとめたり、仲間と交流したりする場面を位置付けた。イメージしていた様子とは異なることを知り、「思いこみ」の危うさに気づくことができた。

→話を聞いたメモや、聞いた後の自分の考えや感想を書いたノートを1冊のファイルに残していくようにした。（ポートフォリオ）すると、子どもたちは何度もそれを読み返し、自分なりの窓をもって話を聞くようになった。

→「あたり前のちがいを」追究する中で、現地に暮らす人たちの知恵に注目した。異文化を「ちがうから排除する」のではなく、「ちがいの意味を考え、受け入れてみる」ことが大切であることに気づくことができた。